

財政比較分析表（平成17年度）

▶内容

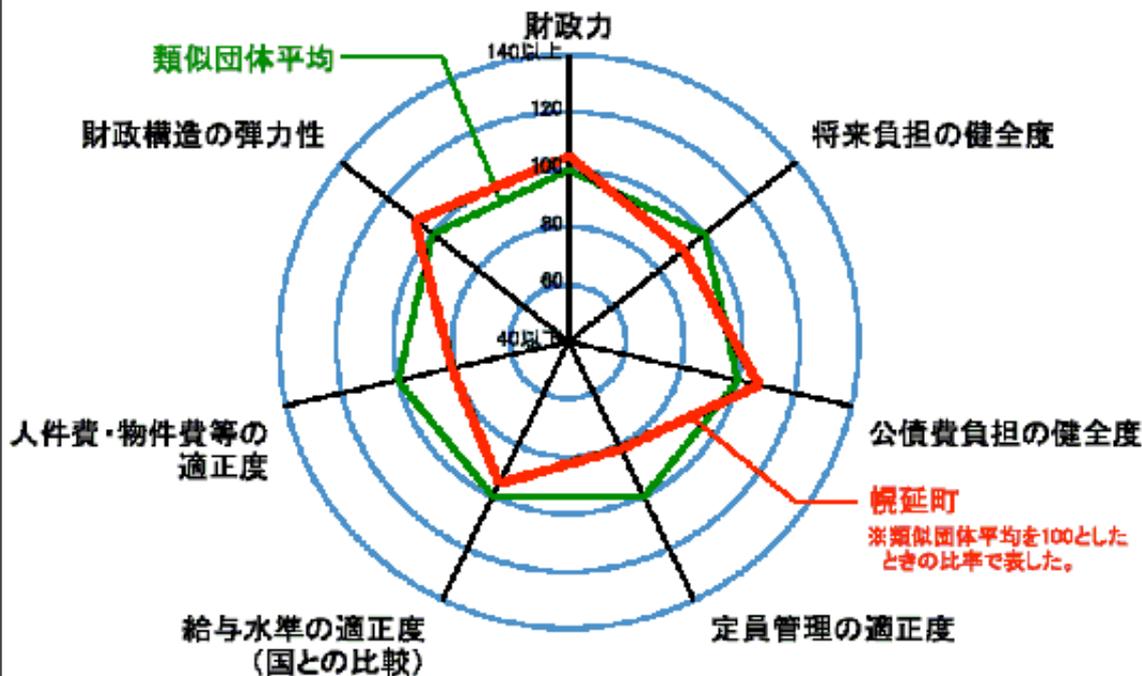
幌延町の財政状況を人口や産業構造面で類似している団体の平均値と比較することにより、町の財政健全度がわかります。

用語解説は[こちら](#)です。

市町村財政比較分析表（平成17年度普通会計決算）

北海道 幌延町

人口	2,778	人(H18.3.31現在)
面積	574.27	km ²
歳入総額	4,453,534	千円
歳出総額	4,385,709	千円
実質収支	49,313	千円

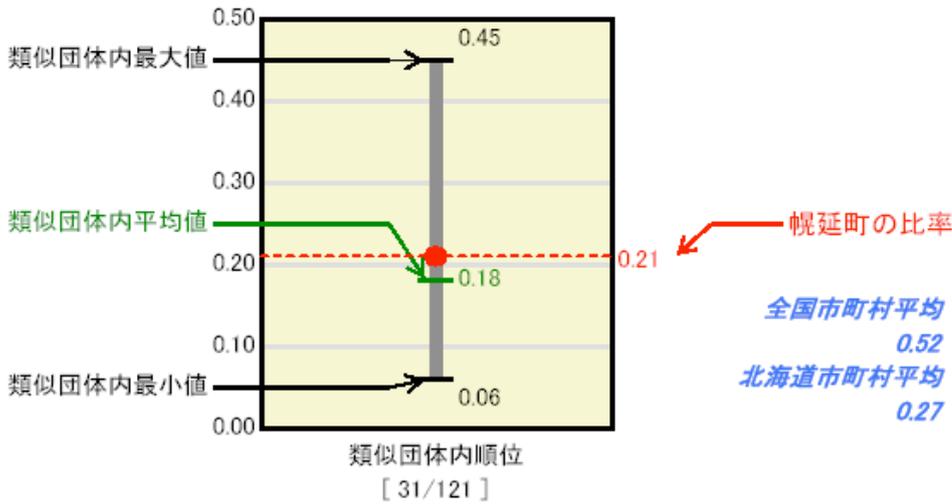


幌延町
※類似団体平均を100としたときの比率で表した。

※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

財政力

財政力指数 **[0.21]**

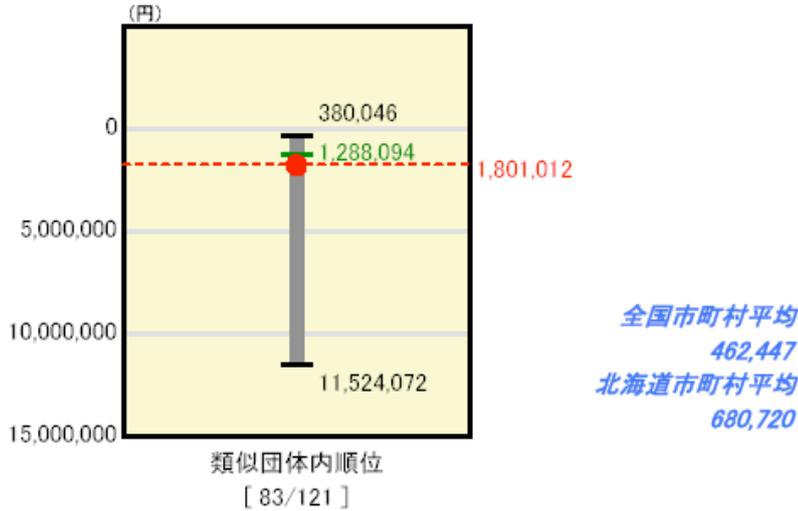


風力発電施設や深地層研究施設関連の固定資産税の課税による町税の伸びのため、ここ数年連続した伸びを示しています。税収は順調に伸びているものの、交付税改革に伴う基準財政需要額も年々減額しています。

なお、当町の財政状況等の詳細は[こちら](#)をご覧ください。

将来負担の健全度

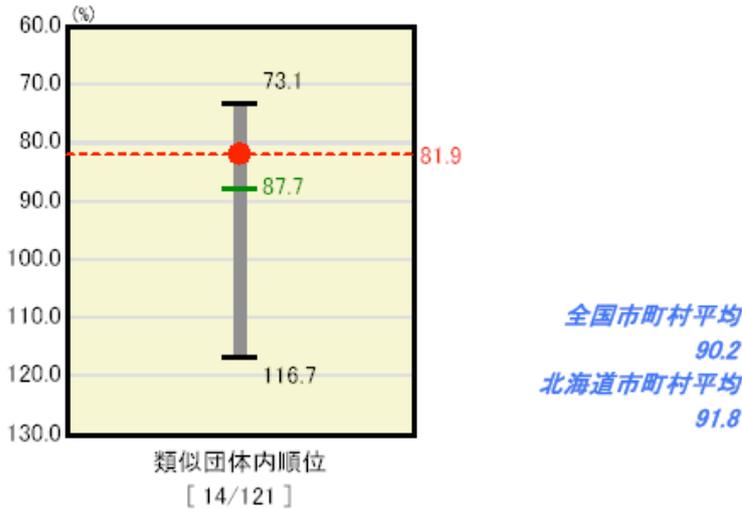
人口1人当たり地方債現在高 **[1,801,012円]**



平成7年度から継続実施している公営住宅マスタープランに伴う公営住宅事業債の借入額が多いため、類似団体と比較すると地方債現在高が多い状況となっています。本事業は、あと4年程度で完了予定ですが、今後もその他事業の年次計画を立てながら新規地方債の発行抑制に努める必要があります。

財政構造の弾力性

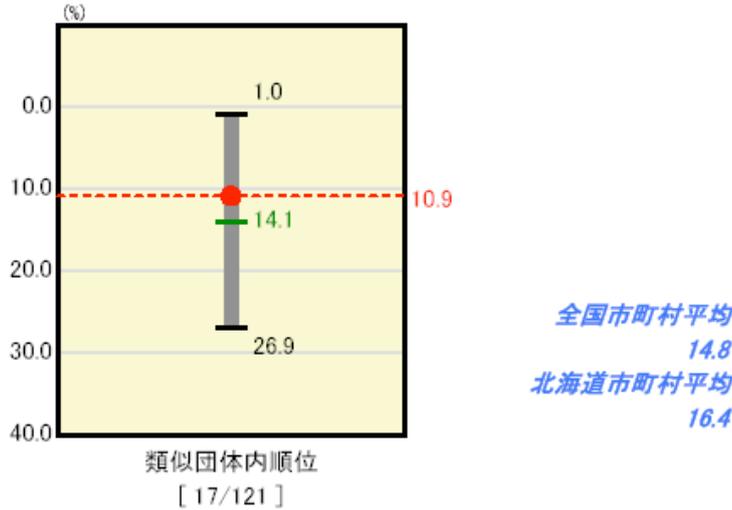
経常収支比率 **[81.9%]**



平成17年度から実施している行財政改革（自律プラン、集中改革プラン）による徹底した歳出の見直しや退職者不補充の実施により、かなり改善しています。しかしながら、全体歳入に占める普通交付税の割合が高い当町にとって、今後の普通交付税の増減が大きな影響を及ぼすため、更なる歳出の抑制が必要となります。

公債費負担の健全度

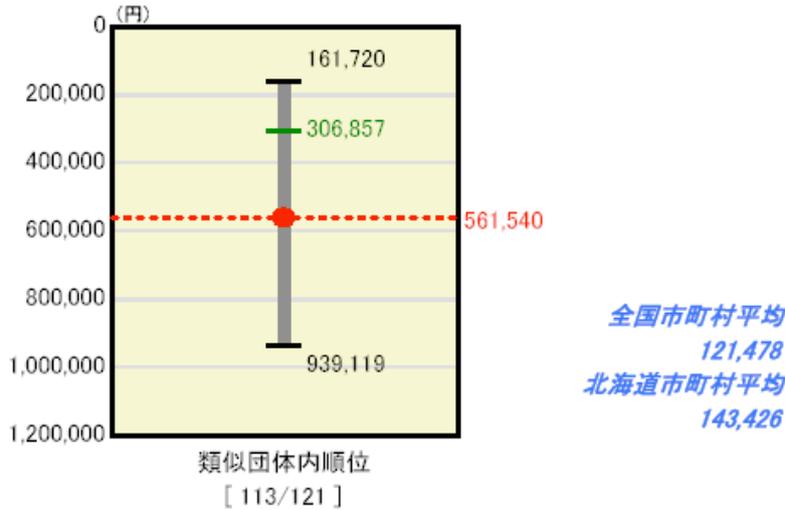
実質公債費比率 **[10.9%]**



国営事業の繰上償還など、債務負担を抑制した結果、類似団体平均を下回っています。

人件費・物件費等の適正度

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 **[561,540円]**

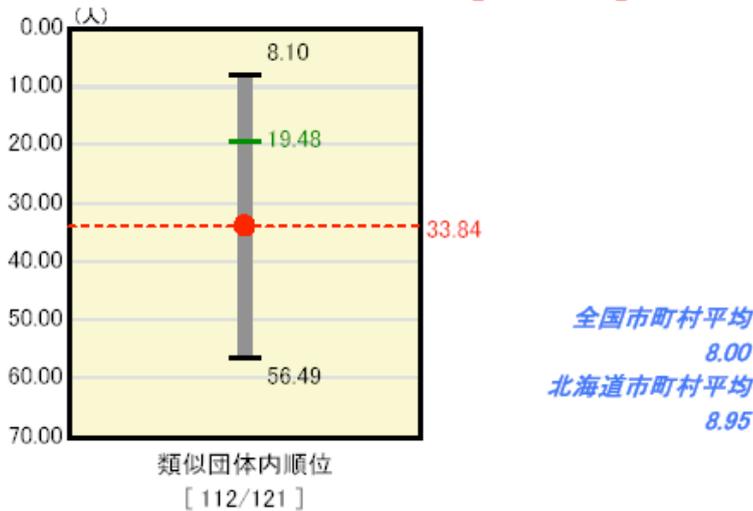


※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

当町は知的障害者援護施設（正職員26名、H17年度決算額352百万円）を運営しており、普通会計には、当該会計も含まれるため、類似団体平均を大きく上回っています。知的障害者援護施設経費を除くと人口1人当たり443千円となりますが、職員数が類似団体と比較すると多いためであると推測できます。今後も定員の適正配置及び行財政改革による経費の節減が肝要となります。

定員管理の適正度

人口1,000人当たり職員数 **[33.84人]**



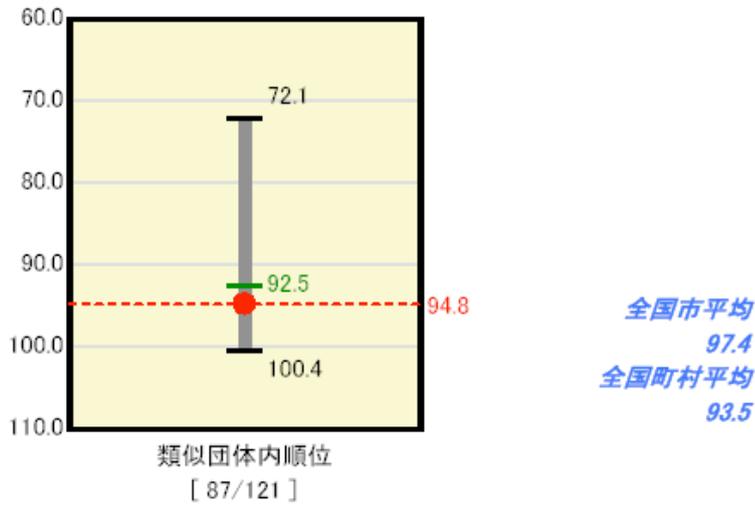
知的障害者援護施設職員26名を除くと、一般会計職員が68名で、人口1,000人当たり24.48人の職員数となりますが、これでも類似団体と比較すると、職員が多い状況にあります。類似団体1,000人当たり職員数を当町人口で按分すると、54名となり、職員の

更なる削減の必要性があります。

なお、当町の定員適正化計画は[こちら](#)をご覧ください。

給与水準の適正度（国との比較）

ラスパイレス指数 **[94.8]**



概ね全国平均で推移しています。

なお、当町の給与形態は[こちら](#)をご覧ください。